

## 平成 26 年度事業計画

### 1. はじめに

昨年度は、経済政策への期待と足元の景況感の改善を背景に大人、子供ともに入込は増加した。一方、団体子供は、平成 23 年 3 月 11 日発生の東日本大震災の影響により道央圏の修学旅行が増加傾向にあったが、東日本の復興とともに大幅減少（-23.0%）となった。有料入込合計は、震災前の平成 22 年度並みとなる共に、前年対比では入込数は 2.8%増、入館料では 4.5%増となった。

平成 26 年度の見通しは、前半の消費税増税による反動、企業業績回復等の後半の盛り返し、円安基調の継続等の中で経済政策の効果が実感を評価される年であり、物価上昇が生活を圧迫することへの不安あるものの、震災後のメリハリ消費が更に進むものと見られている。

こういった動向を踏まえ、当町にとっては、5 月の J R 江差線の廃止、例年の GW を挟んだ松前の観桜、5 月 3 日には客船「にほんまる」(22,472 t、L=166.6m) が江差に寄港し、本港マリーナ桟橋から上陸し江差観光等を行う予定となっている。加えて、本年は 2 年後に迫る新幹線開業の準備年として受入体制の確立を期していかなければならない。

### 2. 事業の概要

#### (1) 経営方針

##### ① 入館者対策について

入館者の入込見込みは下記の背景を踏まえ前年同様 2 万人と見込むこととする。

<対策>

#### 【入館者対策】

<大人団体>

- ・受入対策の充実には町の総力を挙げて、滞在時間の延長をターゲットとした対策が重要となっている（現行の 1 時間程度を半日程度に、あるいは宿泊型等に）
- ・夏季、秋季とも滞在時間が短い同様の形態であり、更に、メリハリ消費が進むことから質的転換（無料のガイド説明の充実等）を図りながら減少防止を図っていく必要があると考えられる。

<子供団体-修学・研修旅行>

- ・宿泊研修の確保等。

関係する中学校訪問等を継続していく。

<大人一般>

- ・レンタカー割引など集客の容易性を追求しながら増加に向けた周知を図って

いくこととする。

#### 【魅力創出】

##### ・「～再発見開陽丸～」

展示資料等の分かり易い解説、イメージ絵画等の展示を充実する。

#### 【パブリシティの活用】

・写真資料、映像資料の無料提供(雑誌社・新聞・テレビ)、取材対応

・新幹線開業時に向けたパブリシティの強化

#### 【割引制度の拡充】

・関連施設等への拡充(新規)

・町内宿泊者の割引券交付<1割引>継続

・JAF、福利厚生クラブ等の割引<1割引>継続

・「道民家庭の日、どさんこ子育て特典制度」<1割引>継続

・北海道学検定合格者割引<1割引>継続

・JRさよなら江差線割引、レンタカー、タクシー利用者割引<1割引>継続

#### ②海の駅の活用について

いつでも気軽に憩うことのできる場所として、「海の駅」機能の充実を図る。

・売店については、「ぷらっと江差」と連携し経営の一体化と物販品の拡充に努めます。

#### ③運営管理の効率化について

・冬期間の休館と団体予約によるスムーズな入館対応

・鍋まつり開館(日曜日午前中開館・なべ祭り会場との連動)と3月下旬の開館の試行を継続します。

#### ④開陽丸子孫の会との連携協力について

開陽丸子孫の会は平成7年に設立され、会員数90名を超える団体に発展しております。子孫に残された歴史の発掘により新たな開陽丸の魅力創出と全国への情報発信は重要となっており、今後も関係者との交流、連携を図ってまいります。

### (2) 青少年研修事業等の推進について

#### ①春と夏の研修事業

・事業名 「開陽丸をもっと知ろう」(継続)

・対象 小中学生

・実施時期 GWと夏休み期間

・内容 クイズと記念品

#### ②通年研修事業

「～再発見開陽丸～」(再掲)

・開陽丸原図等をもとに図解したビジュアル資料の作成と啓発継続

(3) マリーナ指定管理業務

- ① 江差港マリーナ指定管理業務の継続
- ② ヨット競技の各種大会への連携協力
- ③ 「にほんまる」受入棧橋の補修他

(4) 開陽丸友の会との連携

- (ア) 21世紀新聞のホームページ活用
- (イ) 研修会開催及び支援
- (ウ) 友の会活動の連携協力

(5) 開陽丸関係資料の収集と整備

- ・開陽丸関係図書の購入保管に努める。
- ・道南ブロック博物館施設等連絡協議会との連携

(6) その他

- ・新幹線開業と新たな対応の検討
- (ア) 老朽施設の補修(煙突、マスト塗装等)
- (イ) 新たな魅力創出
- ・企画展の開催